

書評：情報と社会に関する本 4 冊

早稲田大学大学院 国際情報通信科 教授
寺島 信義

『インターネット社会と法 第2版』

堀部政男 編著 新世社 2006年

インターネット社会の法的問題を種々の視点から最新情報を交えて解説した書。

特に2001年以降のe-Japanに関する問題を例を交えて解説。

インターネットによって誰でもが発信者にも受信者にもなれる社会。自分のホームページやブログを使って情報発信が自由になったが、これに伴う問題が顕在化してきている。それはインターネットの匿名性を悪用した他人への誹謗中傷や悪質な詐欺の横行である。このような事態に対処するために、2001年にプロバイダ責任制限法が施行された。

これは被害者から被害を受けたことが明らかな場合に発信者情報の開示請求を認めるというものである。これによって悪質な書き込みがさらなる書き込みをよぶインターネット炎上を食い止める効果も出てきた。

またミレニアムプロジェクトとして電子政府・電子国家への道筋を紹介。電子投票や裁判所へのオンライン申し立てシステムなどを紹介。情報セキュリティや個人情報保護に対する法的対策も解説。インターネットの普及で電子商取引も盛んになった。これに対処して電子契約法、本人確認のための電子署名法、などを紹介。公的な契約書にはサインや実印が用いられるが、インターネットの世界ではこれを使えばコピーされてしまう。これに代わるものとして2001年に電子署名法が施行されデジタル署名もはんこや実印と同じ効果をもつことが法的に認められた。インターネットでは匿名性を悪用した名誉棄損やプライバシー侵害が後を絶たない。これはプロバイダ責任制限法の



施行で防ぐ法的手段が講じられたが、この前には種々の事件があったことが克明に記述され、非常に参考になる。

最後に著作権法の改正について解説。インターネット時代で著作物は電子化されインターネットで閲覧したり情報交換することが容易になった反面、簡単にコピーできてしまう。これに対する法も解説。要するに本書は、インターネット時代において発信者も受信者も閲覧者も著者も安心・安全に情報交換ができる法的対策について網羅的に記述されているのが特徴で、インターネット時代を生きるわれわれにとって欠かすことができない書といえよう。

『知識資本主義』

アラン・バートン・ジョーンズ 著 / 野中郁次郎 監訳 / 有賀裕子 訳 日本経済新聞出版社 2001年

情報社会において重要な役割を果たすのは知識であるという認識に立って、知識こそグローバルキャピタルの中で最も重要と位置づけ、知識資本主義を提案しているのがこの本の特徴である。本書は4部構成からなり、1部では、知識革命の意味を解説。これまでの組織や雇用形態から知識を核とする組織への変貌と、知識の供給を基盤とする新しいモデルを提案。2部では、知識市場として正規雇用の減少と非正規雇用の増大、人材供給とアウトソーシングを生業とする知識仲介サービスの台頭、知識産業の台頭で顕在化した依存型コントラクター、自立型コントラクター、マイクロ企業といった知識サプライアを紹介。

3部の知識ベース企業では、知識資源の価値が高まるにつれて企業はその役割を変容させ、組織



構造や事業戦略に影響を与えることを指摘。

4部では、知識エスカレータとして、高度な熟練労働者への需要が高まり、それにつれて生涯学習が必要になることを指摘。インターネットによる学習サービスが盛んになり、グローバルな学習産業が発展して、従来の学び手と教え手、企業との関係にも変化がおこると予測。今後は物理的な生産要素よりも知識が重要になると指摘。ちなみに1990年半ばには生産的富の最大の国はオーストラリアで第5位が日本だった。オーストラリアの生産的富の80%は土地、鉱物などの一次産品なのに対して日本は一次産品の割合は20%に過ぎず80%は知識や技能によって生み出されている。21世紀に入ると知識の割合が増加して知識に依存する国が生産的富の上位になると予測。

知識市場が拡大するにつれて、自由契約社員の全体に占める比率が増加していくと予測。この変化は自由契約社員が提供する知識による。知識のある契約社員が企業では好んで求められる。このため知識をもった契約社員が企業の求めに応じて企業をわたり歩く流動性が加速すると予測している。今は非正規雇用が日本でも1700万人といわれるほどに増加している。景気後退で派遣切りが行われている。皮肉にもこの本でいう知識をもった自立型な労働者ではなく、誰でもできるルーチンワークに非正規雇用が増加している現実がある。この本が主張する方向に政治も経済も社会も向かっていくことを祈るばかりである。

『なるほどナットク！ネットワークセキュリティがわかる本』

伊藤敏幸 著 オーム社 2000年

情報社会で欠かすことが出来ないセキュリティに関する事項を図面を駆使して網羅的にわかりやすく解説した本である。

まずネットワークでの危険として、盗聴、破壊、なりすまし、ウイルス、ワームなどを解説。つぎ

にネットワークで危険から守るべきコンピュータやデータ、ファイルについて解説、インターネッ



トやプロトコルなどのネットワークの仕組み、ネットワークの弱点として至る所に危険が入り込む可能性を指摘、許された人にしか使わせないためのパスワードやID、防御対策としてファイアウォール、暗号、認証、デジタル署名、SSL(Secure Socket Layer)通信、電子商取引、などの方法について解説し、最後にネットワークセキュリティに関する法規として、コンピュータ犯罪防止法、知的所有権、電子署名法、通信傍受法などを解説している。特にセキュリティを担保するための重要な技術である暗号として共通鍵暗号と公開鍵暗号、ハッシュなどについて解説し、これらがデジタル署名、認証、SSL通信、電子商取引などにいかに利用されるかを体系立てて解説している。

情報交換はもとより、インターネット・ショッピング、企業間の取引などの生活、社会、経済活動がネットワークで行われる。したがってインターネットで起こりうる危険から情報を守るにはセキュリティの知識を持つことは大事だ。セキュリティに関する書籍は多数あるが、この書ほどわかりやすく記述されているものは数少ない。

『「誰でもよかった殺人」が起こる理由』

秋葉原無差別殺人事件は何を問いかけたか 』

加納寛子 著 日本標準 2008年

秋葉原無差別殺人事件の実行犯がなぜこのように多くの不特定多数の見知らぬ通行人を殺戮したのか、実行犯の生い立ち、生活環境、書き込みなどを分析しながら、その真相に迫ろうとして書かれた本である。母親から見捨てられたことが犯罪を

引き起こす引き金の大きな要因ではと分析。彼女がいない、友がいないことを犯人は書き込みしている。加害者の職場や住環境、性格、遺伝、ストレスなどにも言及。親の過剰な管理が、ストレスをため、犯罪の誘発要因になりうる。犯罪の歯止めは個人と社会を結びすぎずであり、それがなくなったときに犯罪に走るのではと主張する。このような犯罪を起こさないためには子供のころに禁



止するのではなく、やりたいことをやらせ現実を体験させる。立ち止まるのではなく努力して達成感を味わってほしいと結んでいる。このような現代の若者に潜む病理に注目している。特定の原因を見つけるのは困難ではあるが、著者は手探りで、今の社会に何が問題なのか、それを解決するヒントを探ろうとしている。

同居者の携帯の音がうるさいといって刺してしまう女、産み落とししたらずぐにあやめたり、トイレに置き去りにする女、携帯サイトで知り合った男が見ず知らずの女性をあやめるなど日々悲惨な犯罪が後を絶たない。確かに戦前戦後の混乱期に比べれば殺人の数はへっているが、その頃と今とは経済の状況も様変わりしている。比較にはならない。このような事件を聞かされるたびに思うのは人の命の軽さだ。オハイオ州立大学の生物学者がつぎのような実験をしたそう。約30センチ

立方の木箱に土をいれ、ひと株のライ麦の苗を植え水やりをして半年培養したそうである。半年後に掘り出して根の長さを測ったらなんと地球半周もの長さになったそう。あの貧相に見えるライ麦でも一生懸命根を生やし生きようとしていたのである。われわれ人間は毎日何百万という細胞が外敵と闘っては死に新たな細胞が生まれているという。ひとりひとり一生懸命に生きているのだ。このことに思いをいたせば人を傷つけることなどできないはずだ。人に危害を加えたときに被害者やその家族だけではなく加害者の家族をさえ、どれほどの悲しい境遇に陥れることになるか、そのことに思いをはせる気持ちがほんのちょっとでもあるならこのような悲惨な犯罪は決して起こらないと信じたい。この小書はそのことを示唆している。この事案だけではなく、この種の凶悪事件を検証して説得力のある更なる解説を期待したい。

研究会のお知らせ

第2回全国高等学校情報教育研究大会 兼 第2回関東都県高等学校情報教育研究会研究大会

目 的	全国の情報教育関係者が一堂に介し、講演、研究発表、協議、情報交換を通して、これからの教科「情報」の在り方や課題解決の方策を探り、実践的指導力の向上を目指す。
大会テーマ	ICT コンパス - あふれる情報の波を乗りこなす -
日 時	平成21年8月24日(月) 10:00 ~ 17:00
会 場	筑波学院大学(〒305・0031 茨城県つくば市吾妻3・1)
内 容	講演会(演題及び講師は調整中) 分科会: 高等学校情報教育実践発表(研究発表・協議会) ポスターセッション
申込方法	全国高等学校情報教育研究会Webサイト(http://www.zenkojoken.jp)よりお申込下さい。
申込期間	分科会・ポスターセッション発表者 4月~6月 参加者 6月~
参加費	1,000円(資料代含む)

i-Net 第25号

平成21年5月発行(年3回発行予定)

150725

頒価 100円

発行所 数研出版株式会社

東京 〒102-0073 東京都千代田区九段北1-12-11

京都 〒604-0867 京都市中京区烏丸丸太町西入ル

[電話] コールセンター (077) 552・7500

ホームページ <http://www.chart.co.jp/>